



発行所 社会 宗像 大像  
〒811-3505 福岡県宗像郡玄海町  
電話 0940-62-1311(代)  
定価 一年送料共 1000円

神具・装束 株式会社 井筒  
結婚式用品 会社  
福岡店 福岡市博多区東公園一三三番 812-0045  
電話 093-651-1945(六番)  
本店 京都市下京区御池小路三条北入 600-823  
電話 075-234-1134(代) 1番  
電話 京都 075-343-1334(一三番)

木組の家 匠の技  
総合建設業 株式会社 弘江組  
事務所 〒816 福岡県宗像市大字福元一〇二五  
電話 0940-331-256七

# 一年を振り返って

## 平成十一年回顧



平成十一年が暮れようとしております。今年も多くの方々に御参拝賜り、更に各祭典、諸行事には関係各位の皆様にご御参拝をいただき厚く御礼申し上げます。様々な想いが去来する一年ではありましたが、当社今年一年を祭典中心に回顧してみます。

四月一・二日春季大祭を、二十九日昭和祭を、また二十九・三十日には、筑前大島鎮座の沖津宮巡拝所、中津宮にて沖・中西宮春季大祭を、今上陛下御成婚を記念して制定された「宗像大社奨学金」も、本年四十年の節目を迎え、受給生も約六〇〇名を数えるまでになりました。

五月五日五月祭、二十七日には玄界灘の真つ只中にボツンと浮かぶ沖ノ島鎮座の沖津宮にて年に一度の沖津宮現地大祭を、全国各地の崇敬者約二〇〇名余りが渡島致しました。

七月三十一日、大祓式・夏越祭。神門にしつらえられた緑鮮やかな大茅輪の前庭に、宗像市町内にもとより全国の崇敬者から寄せられたのり餅を、本年上半期の罪・穢をお祓いすると共に、参拝者は大茅輪を潜り下半期の無病息災を祈りました。中津宮にて開催された七夕拝堂祭は今年で四十四回目を数え約一五〇名の児童、生徒達が大島の夏を満喫しました。

八月七日、中津宮境内の清流「天の川」をはさんで鎮座する牽牛社・織女社の神前で七夕祭。七夕踊りも奉納された夜遅くまで賑わいました。

十月一・二日秋季大祭。昨年台風接近のため、中止となつた「みあひの祭」は、宗像七浦と近隣の漁船の大船団による海上萬燈籠の祭典として繰り広げられました。

十一月三日明治祭、十五日三三三新嘗祭。この月には昭和四十六年の昭和天皇御即位六十周年の昭和天皇御即位記念として、西日本菊花大会を始めとする種々の神賑行事が毎年催されておりましたが、本年も第二十九回西日本菊花大会、第二十九回刀剣展、奉納吟詠詩舞大会、秋季奉納盆舞祭、献祝短歌大会、少林寺奉納演武会、宗像大社本因坊戦等の神賑行事が催されました。

境内には菊花をバックに記念写真を撮影する晴れ着姿の七五三参拝者で大いに賑わい、特設のお茶席にも錦秋の一日を心行くまで楽しむ参拝者が絶えません。また本年は、従来の菊花

展に加え、全日本菊花連盟主催による菊花展行事が九月十四日の六日間に亘り盛大に開催されました。先ず九日に当社清明殿に於てアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドの各国と日本の関係者が参加し、第八回国際菊花会議が、翌十日には第二十五回全日本菊花連盟全国大会福岡宗像大会が宗像ユリックスにて挙行され、北は北海道から南は鹿児島までの菊作り名人が、丹精込めて栽培した見事な菊花展が、〇〇点が出品されその美を競いました。

十二月十四日にかけては、この機会が見ることが出来る名花と世界各国の菊花をより多くの人々に観賞していただくこと、世界の菊・日本の菊・インテマに「国際フラワーショー」を開催、一般公開し多数の方々に観賞いただき、花を賞でいただきました。

十二月十八日、午前十一時より当社祈願殿において平成十一年神宮大祭及び宗像大社神符頒布始祭が厳粛かつ盛大に挙行された。

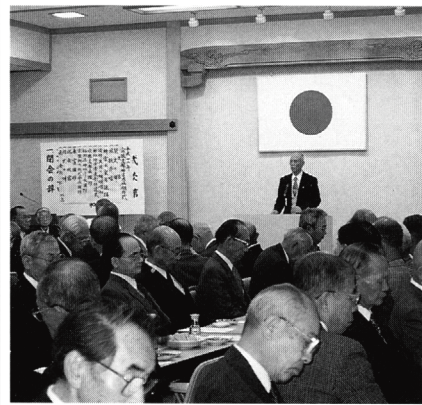
去る十一月十八日、午前十一時より当社祈願殿において平成十一年神宮大祭及び宗像大社神符頒布始祭が厳粛かつ盛大に挙行された。

当日は、福岡県神社庁真木副副長、中村侃宗像支部長を始め郡市内の神職及び総代約百八十名が参列し、祭典は宗像宮地獄神社祭典本部神符頒布支部副支部長以下神職奉仕のもとに挙行された。

長に宗像大社神符を、それぞれ宗像大社より授与され祭典は終了した。

祭典に先立ち清明殿にて氏子評議員会が開催され、正月祭案内、古式祭御座の件、献米奉生祭、氏子奉幣使選出、年越の大祓式、氏子総代奉勤経喜長彰等の諸議案に対し、慎重な審議がなされた。

来年の献米奉生祭には氏子奉幣使として宗像市武丸の立石俊郎氏に御奉仕頂く旨、決定され、氏子評議員会は無事終了し、祭典終了後も清明殿にて大祓式の式典が催され、真木副副長、中村支部長、沖総代が各々挨拶をされ、神皇大神が一体でも多く頒布されるよう、総代各位の御尽力をお願いし式典を終了した。



宗像大社神符頒布始祭  
氏子評議員会も開催

宗像大社社務所

### 大祓式並びに除夜祭の御案内

年の瀬を迎え、皆様方には御多忙の御事と拝察申し上げます。この神事は一年間の心身の罪、穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで新年を迎える儀式であります。

### 余滴

十二月も半ば過ぎた。早いものである、平成の世になつて満十一年の歳が流れた、十年一昔と云う。さらに今年を以て二十世紀が終る。

御神徳に奉謝する祭典であります。本年も左記日程により、大祓式並びに除夜祭を齎行致します。皆様方と一緒にこれらの儀式、祭典に奉仕し、清き心で新年をお迎え致し度く、御参拝、御参列の御案内を申し上げます。

電子計算機、コンピューターなる機械を理解している人々には対応出来るであろう、しかし、利用便利さだけで使用して居る一般人には、何が起きるのか、なぜ非常事態に落ち入る可能性があるのか全然わからない。解らないからこわい、不安な「年の瀬」を迎える事になる。







# 第四六二回 宗像大社歌会詠草

大野 展 男 選  
毎月 25 日 夕 刊

鐘崎 安永 久子  
我が部屋と仏間に続くひと  
ところ夜すがら細きあかり  
を点す

自由ヶ丘 細川 絹子  
池の面に浮ぶもみぢり芥  
し色さなみに乗りゆれつ  
つがる

朝野 藤井 浩子  
高速度走りて病の母見舞ふ  
またも巡り来もみじの季が  
つがる

(評) 彼岸と此彼を橋渡し  
する明り、それを点し語り  
かけるのは生者である作者  
下句にこめられた作者の気  
持を生かすために、主体  
をはっきりさせるために  
原作の「仏間より我が部屋  
に続く」を直した所以を作  
者も承知出来るだろう。

日の里 大和美由紀  
朝寒むにコーヒーカープの  
ぬくもりを両手に感ず朝の  
ひととき

在 自 佐々木和彦  
灯の映ゆる板の階段下りつ  
つ御飯の炊くる匂ひを嗅ぎ  
ぬ

曲 天野 玲子  
かがやけるこの菊花展のい  
ろどりを家にこもれる母に  
見せたし

城南ヶ丘 中間日出子  
ひさびさの雨にうるおい草  
も木も生き返ること朝日に  
ひかる

八幡西 有吉 陽子  
山間に突然立ちし虹の橋野  
草摘も手を休め眺める

(評) 安永作品が彼岸への  
語りかけに対し、これは家  
ごもりする老い母への語り  
かけ、一首とも女性ならで  
はの優しい、心情の見える  
作品である。

福間 中村 勇  
山門に瓦奇進の貼紙あり千  
円納め古刹を去りぬ

原 町 八波 五月  
英会話暗なむ嫁がホームス  
テイに異国の子女を愛しみ  
てをり

田野 森 つるの  
見下ろしの菖蒲はビニール  
の張られて光る海のごとく

武 丸 中村さつき  
幾度も嫁は優しく誘ふも決  
心つかず老いたる吾も

名古屋 小田 喜一  
友遊きて無住となりし垣の  
内金米庫のしきりと香る

(評) リズムに張りりと躍動  
感がある。作者が母農家で  
あることを知れば、このリ  
ズム感もさああらんとしな  
ずけるころ、情景描写に  
徹して力ある一首。

名古屋 小田 留子  
秋空に活き活きとひびく靴  
の音かつては我れも持ちし  
この音

池田 小田 イセ  
桜欄の葉に結びて干せる軒  
の柿日に照らされて色の芥  
えゆく

福岡 池浦千鶴子  
秋の夜の卓の灯りに寄りて  
来し夫の白髪冷たくひか  
る

大島 杉田 禮子  
次々に港出でゆく捲網の船  
団に島の夕べにきわむ

光岡 河村 久光  
新しき店の数立ち車ふえ家  
建ちこみし宗像の里

(評) 俄に寒くなった秋の  
夜の一瞬、芥えた感覚で対  
象をよく見てをり表現も適  
切である。

田 久 井上 光  
ことごとく葉の散り果てし  
豆畑のちろるの声は澄みて  
か細し

光岡 竹浦 葛明  
葉桜の紅葉一葉ひらりと  
あるかなしかの風に散り逝  
く

〔ご案内〕

## 平成十二年正月祭

### 新年諸祈願並びに

### 縁起守等授与品御案内

平成十二年正月に当大社社頭に於て、初詣の  
皆様に授与致します縁起守等のご紹介を誌面を  
以ちまして御案内申し上げます。

#### 「宗像大社御祈願神聖」

初穂料 一体二〇〇〇円

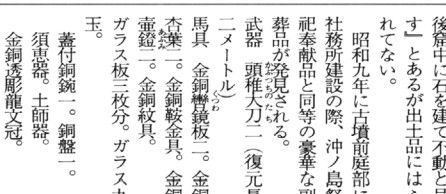
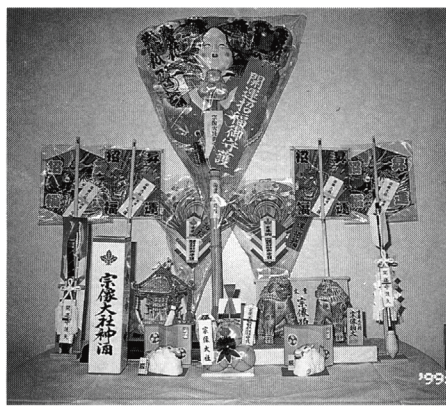
当大社奉天祭の折、地  
元青年達・権成する、保存  
会々員により奉奏される舞  
が、主

今一陸、御即位十年とい  
う慶賀すべき本年、これを  
記念し「宗像大社御祈願神聖」  
形を調製、新春より御参  
拜の皆様方に社頭に授与  
致します。

※大別軍  
（車輪）台につき  
初穂料 六〇〇〇円  
授与品  
車輪用御守、反射守  
御幣各一、供物

※諸祈願  
※会社・団体  
交通安全、業務安全、  
業務繁栄、商売繁盛等  
初穂料 五〇〇〇円以上  
授与品  
折神符特大一、二  
神酒 一  
三〇〇〇円以上  
授与品  
折神符特大一、二  
神酒 一

※交通安全祈願祭  
※普通車  
（車輪）台につき  
初穂料 五、〇〇〇円  
授与品  
車輪用御守、  
御幣各一、供物



当社社では伊勢の名匠に  
特別に製作を依頼し、一年  
がかりで二、千体を奉製いた  
だいております。

この舞は門外不出を原則  
とし、大嘗祭後一度も奏  
されることがありません  
したが、昭和三年昭和天皇  
御即位の折、福岡県脇山  
村（現福岡市早良区脇山）  
が基地方に遷定され、そ  
の時に舞わ  
れた主基地  
方風俗舞を  
昭和四年宮  
内省より皇  
室の由緒  
も深い当大  
社にのみ、  
永久保存す  
る様にと特  
別に御下賜  
されました。

「新春福みくじ」  
初穂料 一体、五〇〇円也  
宗像大社新年の名物であ  
ります福みくじは神門前  
に授与所を特設、新年の運勢  
と福運を占っていただきま  
すよう授与致します。

「新年諸祈願のご案内」  
平成十二年の交通安全、  
業務安全、業務繁栄、家内  
安全等を念記の通り履行致  
します。是非御参拝下  
さい。

「宗像大社御祈願神聖」  
形を調製、新春より御参  
拜の皆様方に社頭に授与  
致します。

## 一話(完) 古代豪族の奥津城(8)

樂 奈 子

桜京古墳の装飾は、石館  
の奥壁と柱に、手彫り線刻  
で輪郭を取り矩形を描き、  
放射線四等分し、赤・緑・  
黄の三色で塗り分けている。  
一番高い筑豊地方の嘉穂  
郡桂川町王塚古墳と、若宮  
若宮町原古墳と、絵画的  
で有名な装飾古墳である。  
桜京の様な幾何学文は、筑  
後地方や筑後川を挟んだ熊  
本県北部地方に多く見られ  
るが、中でも六世紀中葉に  
比定される山鹿市オプサン  
古墳に、形や装飾最っ  
とも類似している。

「日本書紀」によると、  
宗像三女神、海北道中在  
り、號て連玉と云う。此  
れ筑紫の水沼君が祀とす。  
このことは、左界を制す  
る海人族と右明海を制する  
海人族とが、深い友交関係  
であったことが窺える。  
何れにせよ、桜京古墳は  
六世紀中頃の筑豊を治め  
ていた胸形族の領袖の墳墓  
である。

ここから南に六キロ程行  
くと、「宮地嶽古墳」に行  
き着く。今は津屋崎町宮司  
の宮地嶽神社奥院、不動  
神社として祀られている。  
この古墳が、津屋崎の海  
岸線から安東灘を見つめて  
いる。前方後円墳十三基を  
含めて、一〇〇〜三〇〇基の  
古墳群、胸形族の奥津城の  
終着点である。  
宮地嶽古墳は径三十四メー  
トルの円墳である。内部は  
長さ二十一メートルもある、  
長大な横穴式石室を、左右  
石室高さ二メートル、左右  
に幅四メートル以上の石が  
並び、天井石は五メートル  
の長さがある。

石室は復室であるが、羨  
道部と石室との区別が付き  
にくい。前室の左右と奥室  
の奥に、石籠のように石を  
切り込み小室を設けている。  
青柳種信著「筑前国続風  
土記」(文久三年、一八六  
三)には「此窟、大風  
の後山前に初めて開口、其  
後窟中に石を建て不動と号  
す」とあるが出土品にはふ  
れてない。

昭和九年に古墳前庭部に  
社務所建設の際、沖ノ島祭  
祀奉獻品と同等の豪華な副  
葬品が確認される。  
武器、頭椎大刀二(復元長  
二メートル)  
馬具、金銅鏡板一、金銅  
杏葉一、金銅鞍金具、金銅  
靈鏡一、金銅鏡具、  
ガラス板三枚分。ガラス丸  
玉。

善付銅鏡一。銅盤一。  
須恵器、土師器。  
金銅透彫龍文冠。  
ガラス鏡蓋と青銅善付蔵  
骨器と深鉢が二つ。  
大正三年(七〇三)に持  
統天皇が火葬されてより、  
藤原京や平城京の貴族や地  
方豪族の間で火葬が流行し、  
蔵骨器におさめられていた。  
宮地嶽古墳は、七世紀末  
の古墳時代終末期を飾る最  
大にも比定される石室を持  
つ古墳である。

時の宗像の領主は、「日  
本書紀」(天武二年、六七四  
に「胸形君種實」とある。  
徳善の女、尼子娘は天武  
天皇の後宮に入り、壬申の  
乱(六七二年)の総大将で  
あり持統天皇の大政大臣を  
務めた高市皇も生む。

このことは、中央の大王  
王権と直接つながりがある  
地方豪族の一人としての  
実証である。

ともあれ、宮地嶽古墳の  
被葬者は胸形君種實である。



### 宗像大社歌会

福間 森 清  
首おとし魚を待つ鷹十月終

自由ヶ丘 細川 綱子  
えんどうの風にそよげりつるのびて

小笹 山下しづえ  
着ぶくれて一人で笑ふ初時雨

東郷 吉武 湧泉  
迎へ傘届けば降り止む時雨かな

東郷 中野 きみ  
欄宜のさす番傘太く初時雨

東郷 吉田 杏子  
友訪ひて帰ればしづむ時雨かな

東郷 三浦美千代  
返り花水雨静かにぬらし居り

東郷 田中 雨葉  
狛犬の向き合ふ中に木の葉降る

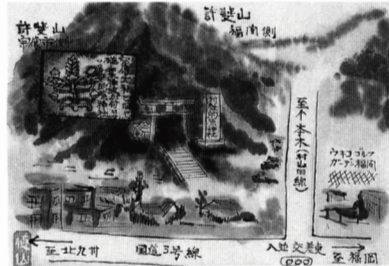
東郷 木原 房子  
石佛の御目親しやはれ萩



## 「神郡宗像」 宗像大社末社めぐり

### (三) 的原神社 (旧村社・撰社)

国道三号線を宗像市より福岡市に向って北上すると、市と福岡市との堺に八並交差点の信号がある。これを左折して、県道(鞍手郡宮田方面)を約五百メートル



出緒記によると、大百貫が宗像奥津局の神なる田心姫を娶って、味鋲高彦根命と下照姫命とを生み給うた

的原本大神社、山中といふ所の内マトハラに有産神也。大巨貫命・味鋲高彦根命・下照姫命・諏訪大神神・小木大明神也。此所にて射術をならひしとそ。又、イバガモト(射場が本)といふ小字もあり

大百貫が宗像奥津局の神なる田心姫を娶って、味鋲高彦根命と下照姫命とを生み給うた。これに祀るところである。(宗像神社史)と記されている。またの原神社社号については、筑前縣風土記付録に次の様に書かれている。

筑前縣風土記拾遺の的原本大神記には社説に此社に宇麻志麻治命八世孫大小木命をも合せ祭りて、都て四神也と云。縁起記に大小木命の御弟に大母瀧命有。此神は矢集連の祖也といへば、大母瀧命は大小木命に從ひて、此地に住給ひし故、村の名をば矢集といひたりしを、後に八並といひならはしたるなるべしとあり。と書かれてある。この的原本神社は現在も宗像大社の撰社で恒例の十月十二日の祭典には神宮が出向し幣帛を捧げる。

当社は宗像大社撰社で宗像七十五社の一也。と由緒にある通り今も宗像大社との関係は深い神社である。の原神社に参拝して最初

こる船にのりて、満潮に帆ひきたれば、立はしりやうりたらんやうにて、午の時(十二時)にはつきま、故さとの近づくを悦びしつねよりも心かろき成へし。船の来るほどとて、髪のを、けたるを梳り、衣などとりて着かふとて、崎守の肩にまどひし鹿(ろも)なれて中々かへう

### 青柳種信著 瀛津島防人日記(下巻ノ十五) 平野国臣写

いかなることを書きたるにか。又、此崎の東海の岸にも大なる岩窟あり。爰にも文字を彫たれども見えず。近き頃この鳥に鯨をとる。その脂を煮る(とて)、爰の岩を多く割りとりて甕の構へにせり。其矢をいれしあと多し。かゝる神地をも憚ることなく物するは、いやしき鐘のしわざなら、いとかしこき事にもある。同(八月)三日、朝まだきに船をだして、阿閉鳴をおふ。

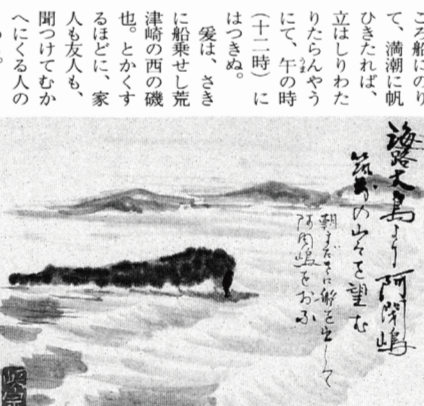
爰より別船に移り乗て、申の時志賀崎に着たり。皇神に参りて、海つ路のやすけかりしをかへりまうと。御前をまかる時、うなばらを見渡しつ、ゆくさくをみれどもあかず打あげの浜のありそに上する白浪

志賀か嶺(海人)の塩焼衣、又、和布刈塩やまきとぞ、いしへ人はよみたりしに、今は塩はやさめぬ。その塩やきしとは、御社の東打鼻の浜につきたるところ也。こよひは此崎にやどりぬ。

日ごろはう(憂)しとながめしやへの塩路も、けふをかきりとおもふには、心のこりてうしろなれたくたいで、巳の時(十時)過ぎるとよみたり。ひといたうめ

鳥達の賑いと、風にゆれる青葉の音に深山幽谷に居る様な気分になる鎮守の森である。すく近くを走る国道の車輛音も聞えず、樹枝葉の間々に見える民家の人影も見えぬしずけさである。拜殿正面頭上には宗像大社の社紋と同じ、三ツ葉柏に五個の柏葉、をデザインした「神紋」が彫刻されている。往昔には許斐一族の信仰深々、今も八並の産子中より厚い崇敬に守られている社である事が伺われる。

で、よめらうた、わが背子が深き心をあらつ崎みつ潮海にたくへてぞみる。



## 宗像大社 初詣交通規制のお知らせ

**期 間**

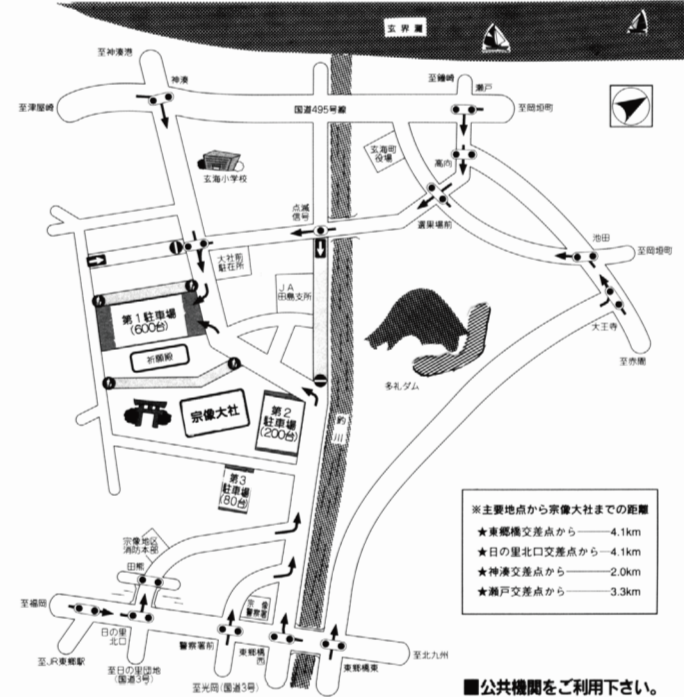
- 平成11年12月31日 午後9時から
- 平成12年1月1日 午後9時まで
- 平成12年1月2日~5日 午前9時から午後7時まで

※交通状況により、規制時間を変更することがあります。

宗像大社の初詣期間中、交通の安全と円滑を図るため、臨時交通規制を実施します。みなさんのご協力をお願いします。

凡 例	
←	宗像大社順路
→	一方通行
歩行者用道路	
車両進入禁止	
交通信号機	
駐車場	

年 末 年 始 祭 典		
12月31日	17:00 大祓式 引き続き	除夜祭
1月1日	5:00 総社地主祭 7:00 元旦祭 引き続き	総社地主祭 元旦祭 高宮祭地主祭 高宮祭 第二・三宮祭
1月2日	新年祭	二日祭
1月3日		三日祭



- 高齢者の交通事故防止
- 飲酒運転の追放
- シートベルトの着用徹底及びチャイルドシートの着用促進

公共機関をご利用下さい。